

1 年 1 組

I 研究の概要

1 研究テーマ

- 返事やあいさつがきちんとできる子どもの育成

2 育てたい力

- ### ○ 表現力

- ・ 返事やあいさつをきちんとする。
- ・ 簡単なインタビューや質問に答える。
- ・ 自分の意志や考えを言葉にする。

- コミュニケーション力

- ・ 人の話を静かに聞く。
- ・ 全体に言われたことを自分のこととして受け止める。
- ・ あいさつの言葉、相づち、返答の仕方等のスキルを身につける。
- ・ 場に応じた受け答えをする。

3 研究の視点と手だて

- 視点1 返事やあいさつをきちんとする。

- ・ 場面に応じた返事を徹底する。
- ・ あいさつ運動などを学級全体で取り組む。
- ・ 簡単なインタビューや質問コーナーを授業に取り入れる。

- 視点2 人の話をしっかりと聞き、場に応じた言葉の受け答えをする。

- ・ 本の読み聞かせを多く取り入れる。
- ・ 教師の言葉や友達の発言を繰り返して尋ねる。
- ・ 言葉のやりとりのパターンを指導する。
- ・ 友達同士での言葉のやりとりの場면을授業に多く取り入れる。

4 具体的な取組と経過

具体的な取組	開始した月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○ 注目の徹底「目、耳、へそ、気持ち」													
○ 話を一度で聞く習慣付け													
○ 本の読み聞かせ													
○ インタビュー遊び													
○ あいさつ運動「さあおすし」													
○ 言葉のやりとりのパターンの指導													
○ 帰りの会の「今日のありがとう」													
○ 帰りの会の日直の話													
○ 「学校ケンパ」の替え歌													
○ 「聞こえません」のサイン													

Ⅱ 成果と課題

1 成果

4月と1月に実施した校内研究意識調査の結果を見ると、4月 1月

- ・ Q「はっきりと声に出してあいさつができる」 A「そう思う」 22名→12名

担任の感覚では、4月よりもあいさつはよくなっている。しかし、子どもの「そう思う」という最も肯定的な自己評価は10ポイントも下がっている。これは、自分に対する子どもの評価が厳しくなったためではないかと考える。にもかかわらず、

- ・ Q「みんなの前で自分の考えを発表できる」 A「そう思う」 9名→13名
- ・ Q「相手の話を最後までしっかり聞ける」 A「そう思う」 23名→26名

と、この質問に対する自己評価はよくなっている。自分に対する評価が厳しくなったと考えた上で結果がよくなっていることは、それだけ子ども自身が自信をもってきたことの現れではないかと考える。もっとも1年生の自己評価の規準はその時々によってあいまいであることは否定できないが、担任の感覚として、一度で話を聞く、最後までしっかり聞く、自分の考えを発表する、質問をしたり答えたりする、などということに関しては、格段に成長したと実感している。

これまでの取組から、どのような活動によって子どもにどんな力が付くのかが見えてきた。それを表にまとめると次のようになる。

育てたい力	具体的な活動									
	注目の徹底	話を一度で聞く習慣	読み聞かせ	インタビュー遊び	あいさつ運動	言葉のパターン指導	今日のありがとう	日直の話	学校ケンパの替え歌	聞こえませんサイン
・返事やあいさつをきちんとする。				○	○	○				
・簡単なインタビューや質問に答える。				○		○		○	○	
・自分の意志や考えを言葉にする。				○		○	○	○	○	
・人の話を静かに聞く。	○	○	○	○			○	○	○	○
・全体に言われたことを自分のこととして受け止める。	○	○	○							○
・あいさつの言葉やコミュニケーションスキル				○	○	○		○	○	
・場に応じた受け答えをする。				○	○	○		○	○	

1年間という長期的な展望に立ち、「育てたい力」を明確にして、その力を育てるための具体的な活動に取り組んできた。そのことによって、意図的・計画的に子どもたちの力を伸ばすことができたように思う。表現力・コミュニケーション力が日常生活においても発揮できるようにするために、授業時間だけでなく様々な場面で小さなことを積み重ねたことが効果的であった。

2 課題

場に応じたあいさつや返事は個人差が大きく、なかなか定着しなかった。あいさつ運動では、シールなどを使って目に見える評価をするなどの工夫が必要であった。

インタビュー遊びでは、おしゃべり感覚のやりとりから、筋道を立てて話をしたり意見を出し合ってまとめたりするような話し合い活動へのステップアップが今後の課題である。また、話し合い活動の中で、司会や進行役にも取り組ませていきたいと考えている。

1 年 2 組

1 研究テーマ

「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」
ー 算数科の学習を通して ー

2 育てたい力

◆表現力

○自分の思いや考えを進んで話すことができる。

◆コミュニケーション力

○先生や友達の話聞いて考えることができる。

○話題に沿って自分の考えや思いを伝えることができる。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕算数科の活動の工夫

○ 問題解決による発表や話し合い

具体物・半具体物の操作や図、数、式などを用い、自分の考えた方法を表現させる。聞き手は発表内容を共感的に聞くとともに、その内容や説明の仕方で良いところ気づき、発表するようにさせる。

○ 学習の振り返り（感想）

○ 教材教具の工夫

〔視点2〕学習形態の工夫

○ 発表や話し合いの形態の工夫

話し合いや発表の目的により、ペア、グループ、学級全体など段階的に形態を工夫して効果的な意見の交流や、学習理解の定着を図る。

〔視点3〕学習環境の整備

○ 話し合いにふさわしい場の設定

机や椅子の配置の工夫を行ったり、発表の約束を書いた掲示物を貼って意識化を図ったりする。

○ 発表の仕方や聞き方の確立

声の大きさや言葉使いなど

成果と課題

視点1 算数科の活動の工夫

○問題解決による発表や話し合い

- ◎児童のアンケートの結果によると話し合いの経験を積んだことにより、意見を言うことや話を聞くことに慣れてきた様子が伺えた。算数以外でもペアやグループでの話し合いのスキルを積んだことが生かされていると考えられる。
- ◎発表のもととなるワークシートを工夫した。児童の実態を考慮し、時間内で活用できる内容にしたことで無理なく記入することができた。書くことに慣れてきたことを感じる。更にシートに記入することで自分の意見を発表しやすくなり、内容を確認しながら聞くことにも大変有効な手立てとなった。
- 更に司会を意識した話し合いをすることでより話し合いを深めることをめざしたい。

○感想などの学習の振り返り

- ◎作成したワークシートで思考が整理・視覚化されて学習のまとめとなり、内容の振り返りや次の段階の学習に生かしていくことに役立った。
- ◎授業終了時に理解度を自己評価して挙手させたり、簡単に感想を言わせたりして振り返りの場をもったことは有効だった。
- 全単元共通で活用できる振り返りカード（感想と簡単な自己評価）を学年で作成し、活用すると言った工夫が必要と考える。

○教材教具の工夫

- ◎実験や実測が必要な単元では多様な活動に対応できる道具の準備に留意した。特に「かさ比べ」ではいろいろな種類の容器を用意したことで、価値ある実験・実測ができた。
- ◎算数セットの活用はもちろん、以前からある教師の掲示用の教材を活用したり、新たに作製したりして、操作と視覚に訴える学習を心がけた。
- ◎ホワイトボードは気軽に文字を書いたり消したりできるし、ブロックがつくので、コミュニケーションスキルが苦手な児童にも説明しやすく有効だった。これからも積極的に活用したい。
- 一斉指導では少人数指導に比べ教材教具もいかしにくいと感じた。

視点2 学習形態の工夫

○発表や話し合いの形態の工夫

- ◎隣同士ペアや、少人数のグループ内で発表をすることに取り組んだ。ペアやグループのメンバー構成を意識した座席を設定するなどの工夫を行うことで、話し合いの活性化につながった。あまり抵抗感がなく気軽に発表や意見交換ができるので、これからも積極的にいろいろな形態を取り入れていきたい。
- せつかくの発表がしっかり聞き取れない場面が見られた。相手に伝わるように話すための技術の一環として音読の学習の充実や発表の仕方のルール確立が更に求められる。またグループ活動中の個々の児童の学習の様子をつかんでおくためのワークシートの活用を工夫していきたい。

視点3 学習環境の整備

○話し合いにふさわしい場の設定・発表の仕方や聞き方の確立

- ◎「話す・聞く態度」を示した掲示物は教室に掲示して日常的に意識化させた。機会をとらえて気づかせ訓練することで「話す・聞く」ことを身に付けることに効果的だった。
- ◎朝の会や帰りの会では聞き手を意識した話をするとともに、聞き手は質問をすることを習慣化することができた。
- ◎適切な声の大きさや、返事・語尾を意識した発表の仕方など身につけてた。
- 殆どの児童がスピーチを抵抗なくできるようになったが、理由や、5W1Hを内容に入れて話すことはまだ個人差がある。スピーチに限らず全ての場面において指導している。
- 日頃の学級の雰囲気がい러ろいろな話し合いや発表の場に反映される。和やかな学級運営が豊かなコミュニケーション力につながることは明白である。常に話しやすい場、平等に話す・聞く場である教室を心がけていくことが大切であり、工夫していく必要がある。
- 話し合いのテーマの設定は児童の実態と授業のめあてによりいろいろ考えられるので吟味する必要がある。また話し合いや発表の場として、人数やグループ数によってはもっと積極的に特別教室を使用することも考えられる。

1 年 3 組

I 研究の概要

1 研究テーマ

表現力・コミュニケーション力を高める指導法の工夫
ー算数的活動を通してー

2 育てたい力

◆表現力

○自分の思いや考えを話すことができる

◆コミュニケーション力

○友だちの話を聞いて、自分の思いや考えを伝えることができる。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕算数的活動の工夫

○問題解決による発表、話し合い

自分の考えや方法について、具体物や半具体物の操作や言葉、数、式、図などで表現させる。
発表の内容や説明のしかたで良い点を中心に見つけださせ、発表させる。

○学習の振り返り（感想）

発表や振り返りマーク等活用して、できるようになった喜びやがんばったことを中心に取り上げ、次時の学習の意欲付けにつなげていく。

〔視点2〕学習形態の工夫

○ペア学習やグループ学習の設定

自分の考え（自分で考えた問題）を隣の席の人に伝えたり、近くの人に伝えたりする場面を設定し、児童同士の交流を図る。

〔視点3〕学習環境の整備

○安心して話せる環境づくり

児童の発言を受容し、教師が補足して他の児童に返し、発言への安心感を持たせる。

○話す・聞くポイントの確立

発表の仕方、挙手、返事、作業をやめて、最後まで聞く。

Ⅲ 研究授業成果と課題

1 授業を振り返って

○長さ比べ学習の本時は、直接比較できない物を比べるために媒介物を使い間接比較する方法を考えさせる授業を展開した。児童は、自分が考えた具体物を使って実際にロッカーの長さを測りながら発表したり、お互いの考えを共有したり、良い点を認め合うことができた。

○学習の導入で、前時の振り返りに具体物を使って視覚的に捉えさせたことは、児童に問題解決に向けた見通しを持たせることに繋がった。

○隣の席の友達に実物のロッカーを実際に使いながら、自分の考えを聞いてもらう活動を取り入れた結果、児童は楽しくお互いにやりとりしながら学習に取り組むことができた。

●提示の際に、紙に縦と横の長さを色別で提示すれば、さらに縦と横の長さを意識付けることにつながったのではないかな。

●まとめの段階でもペアやグループで話し合い、さらにお互いの意見や考えのよさに気づかせることができたのではないかな。

2 一年間の取り組みの成果と課題

〔視点1〕算数的活動の工夫

・ 問題解決による発表、話し合い

○発表の際にホワイトボードやブロックなどを活用し、児童の考えを発表させてきた。発表の苦手な児童の言葉を補足したり、確認したりするのにとても有効であった。

●振り返りシートなどを使うことで、客観的に自己評価できる力をつけていく必要性を感じた。

〔視点2〕学習形態の工夫

・ ペア学習やグループ学習の設定

○ペア学習やグループ学習などの学習形態を工夫することは、一人一人の活躍の場を保障できた。

○意図的にペアやグループを設定することで児童同士の学びあいができ、コミュニケーション力や表現力を高めることができた。

●一斉指導の中で一人一人に配慮することには、限界がある。少人数指導であれば、児童のつまずきもっと細やかな指導ができるのではないかな。

〔視点3〕学習環境の整備

・ 安心して話せる環境づくり

○多くの児童に発言の機会を設けるように心がけ、同じ発言内容でも数名の児童に応えさせることは、発表に対する抵抗感を減らし、自信を持たせることができた。

○聞くことに重点を置き、年間を通して本の読み聞かせや朝のスピーチなどに取り組むことで聞く力が身に付いたようである。

1 年 4 組

1 研究テーマ

表現力・コミュニケーション力を高める指導法の工夫
～算数科の授業実践を通して～

2 育てたい力

◆表現力

○自分の思いや考えを言葉にする力。

◆コミュニケーション力

○人の話を黙って（活動を止めて）聞く力。

○話を最後まで聞き，自分の思いや考えを伝える力。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕算数的活動の工夫

- 問題解決場面での発表や話し合いを通して，表現方法，説明の仕方を指導する。
- 具体物や半具体物の操作活動など，作業的・体験的な活動を積極的に取り入れる。
- 式・図・操作活動等を手がかりに発表（数学的な表現力）できるよう支援する。

〔視点2〕学習形態の工夫

- ペアや小グループ等での学習形態で，児童同士の言葉のやりとり場面を取り入れる。

〔視点3〕日常的な活動の工夫

- 話の仕方・聞き方のポイントなどの掲示物で意識化を図る。
- スキルタイムを活用する（読み聞かせ，スピーチ，数のリズム歌など）。

1 年 4 組 成果と課題

＜視点1＞算数的活動の工夫

意識調査の結果をみると、多くの児童がみんなの前で発表することに対して、以前よりも自信を持つことができたのではないかと考えられる。課題解決場面や発表場面でのコミュニケーションスキル（発表の仕方・聞き方）を身につけることは効果的だったと言える。また、言葉のコミュニケーションスキルが足りなくても、具体物や半具体物を操作することで、発表する時の手がかりになったことから、有効であった。

ホワイトボードを与えたことで、児童の興味関心を集め、意欲を高めることにつながった。初めて与えた時、すぐに、「書いてみたい!」「簡単に消せるからいろいろ考えられる。」などのような声が聞こえてきた。机上で操作したことをもう一度ボード上で操作する児童や、直接ボードに図や説明などを書き込む児童など、自分なりの表現方法をみつけながら取り組んでおり、有効であったといえる。

＜視点2＞学習形態の工夫

全体での発表の前に、必ず隣同士のペアで、自分の考えを伝え合う場面を設定した事は、有効であった。ともすると、授業中ひと言も発しないで終わってしまう児童もいるのだが、ペア学習を取り入れることで、必ずどの児童も言葉にする場面が保証される。話すことが、コミュニケーションの大事な一歩であるから、今後も算数などの学習中に限らず、生活の中での「日常化」が大切である。

＜視点3＞日常的な活動の工夫

掲示物で、日常的に啓蒙を図った。難しい言葉ではなく、子どもたちの言葉で表現したこと、いつも目にするところに掲示したことは、有効であった。10の補数への理解定着を図るために、「10にしましょうあといくつ」ゲームや「10にしよう積み木」など、スキルタイムで算数的活動を計画的に行った結果、理解に時間を要する児童にとっても、遊び感覚で楽しく取り組むことができたので、大変有効だった。

いずれにせよ、どんな活動でも「日常化」することの大切さを再確認した。

＜課題＞

▲適切な自己評価ができるような振り返りカードの工夫と活用

▲日常的な活動の具体化、工夫

1 年 5 組

I 研究の概要

1 研究のテーマ

「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」

2 育てたい力

○表現力

・自分の思いや考えを話すことができる。

○コミュニケーション力

・友達の話を聞いて、自分の思いや考えを伝えることができる。

3 研究の視点と手だて

【視点1】 算数的活動の視点

○問題解決による発表, 話し合い

自分の考えた方法について, 具体物や半具体物の操作を言葉, 数, 式, 図などで表現させる。

○学習の振り返り(感想)

発表や振り返りマーク等活用して, できるようになった喜びやがんばったことを中心に取り上げ, 次時の学習の意欲付けにつなげていく。

【視点2】 学習形態の工夫

○ペア学習やグループ学習の設定

自分の考え(自分で考えた問題)を隣の席の人に伝えたり, 近くの人に伝えたりする場面を設定し, 児童同士の交流を図る。

【視点3】 学習環境の整備

○話す・聞くポイントの確立

大事なことば(キーワード)を常に意識させながら, 聞き方・話し方を身につけさせる。

○安心して話せる環境づくり

児童の発言を受容し, 教師が補足して他の児童に返し, 発言への安心感をもたせる。

Ⅱ 成果と課題

〔視点1〕算数的活動の工夫

- 入門期の学習は、具体物や半具体物を頻繁に使用することでイメージができ、問題の意味を理解することができた。学習が始まったころは、自分の考えをうまく表現できずに、途中で口ごもる場面が多々あったが、発表の方法や話し合いの方法について時間をかけ指導し、後半は児童相互の話し合いができるようになってきた。
- ワークシートやノートに式や図を用いて考えを表現した時は、発表や話し合いと併せて、必ず短時間でクラス全員のものを見合うような場面を設定した。自分と同じ方法なのか違う方法なのか視覚でも判断できるようになってきた。また、自分とは違ういろいろな発想があることを知り、その場で質疑応答が始まることもあった。後半は他の子の考えに関心を持って見るようになった。
- 授業の最後又は単元の最後に振り返りの場面を設定し、学習の感想を発表させたり、ノートに書かせた。がんばったことや分かったことが伝わるように発表できるようになってきた。がんばった感想を聞いて互いに認め合うこともできた。

〔視点2〕学習形態の工夫

- ペア学習を想定し、互いに話しやすいような座席にした。自分の考えをうまく伝えられない時、担任が補足して話していた児童も回を重ねるたびに自分で話せるようになり、伝えることに慣れてきた。後半は児童同士で座席を決め、仲良く話し合い交流を深めることができた。
- グループ学習は主にゲーム的要素の強いカードかるた（たし算・ひき算）等の場面で多く取り入れた。互いに教え合い、児童相互の良さを知ることによって認め合い、楽しみながら活動することができた。

〔視点3〕学習環境の整備

- 全ての教科を通して学習訓練をし、いろいろな場面で話す・聞くの経験を積むように設定してきた。読み聞かせを通し、集中して聞く態度を養い、日直の時はスピーチを通して自分の思いを伝えることに慣れてきた。

今後の課題

- 全単元に共通して使用出来る振り返りカードがあると、毎時間毎の理解度と意欲を掌握することができる。
- 少人数体制をとれば、児童一人一人をもっときめ細かく指導することができ、児童も発表や活動の機会が多くもてる。
- 教師用教具をだれでもすぐに使えるように、活用方法を正しく伝える手段を講じる必要がある。